

WHOISに関する最近の動向(アップデート)

社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター
前村 昌紀

目次

- WHOISレビューチーム最終報告書
- RAA改定議論
- .com契約更改とThick WHOIS
- WHOIS代替プロトコル
- 最後に

前回、第33回ICANN報告会「WHOISに関する最近の動向」もご参照下さい

<http://www.nic.ad.jp/ja/materials/icann-report/20120508-ICANN/20120508-07.pdf>

WHOISレビューチーム最終報告書

WHOISポリシーレビューの内容 (AoC 9.3.1から)

- 正確かつ完全なWHOIS情報(登録者情報、技術情報、請求情報および管理用連絡情報など)に対するタイムリーで、無制限かつ公共的なアクセスを維持するための措置を要求
- 適用状況が法規執行の正当な必要性に合致し、ユーザーの信頼を向上させる範囲を評定する
- AoCの発効日1年間、以後3年毎以下の頻度

Whoisポリシーレビューチームの活動

- 2009/10/01 AoC発効
- 2010/09/30 レビューチーム発足
 - メンバー: SO/AC代表, 専門家, 法執行機関代表, GACチェア/CEO指名
 - 検討期間: 定例電話会議開催、ICANN会議ごとに関係者からヒアリングなど
- 2011/12/05 最終報告書案公開
- 2012/03/18 パブリックコメント期限
 - コスタリカ会議の直後
- 2012/05/11 最終報告書公表
- 2012/06/23 理事会が最終報告書受領を承認
- 2012/07/11 パブリックコメント期限

最終報告書

- WHOIS Review Team Final Report
 - <http://www.icann.org/en/about/aoc-review/whois/final-report-11may12-en.pdf>
 - 2012年 5月11日公開
 - パブリックコメントページ(関連情報あり)
 - <http://www.icann.org/en/news/public-comment/whois-rt-final-report-11may12-en.htm>

最終報告書案における 20の勧告

単一のWHOISポリシー

1: 単一明快なWHOISに関するポリシー

WHOIS Data Reminder Policyのレビュー

2: WDRPによる年次通知が非効率ならば代替案

戦略的な優先順位付け

3: WHOISに関する戦略的な優先順位付け

アウトリーチ

4: 消費者認知度向上のためのアウトリーチ

データの正確性

- 5: 連絡不可能な登録の低減策
- 6: 正確性向上成果の年次報告
- 7: 目標達成進捗の実体的データの提供
- 8: 明快な契約連鎖と非準拠者への段階的制裁
- 9: 既存登録者への登録データ正確性要求の徹底

プライバシーサービスのデータアクセス

- 10: プライバシーサービスへの具体的要求の明確化
- 11: 非準拠事業者に対する段階的制裁

プロキシサービスのデータアクセス

- 12: プロキシサービス事業者との議論推進
- 13: レジストラとプロキシサービス小売者との関係開示要求
- 14: プロキシサービスの推奨実施例の制作と維持
- 15: 推奨実施例を採用するレジストラの奨励・報奨
- 16: WHOISポリシーでプロキシの定義を明確化

一般的インターフェースのデータアクセス

- 17: .COM, .NETに対するThick WHOISサービスをICANNが提供
(あるいは)全gTLDに多言語で照会可能なサイトをICANNが提供

国際化ドメイン名 (IDN)

- 18: 多言語登録規格化WG設立と1年以内の報告
- 19: 多言語登録規格のレジストラ・レジストリ契約への導入(制定後半年以内)
- 20: 多言語登録の正確性基準の制定

最終報告書における 16の勧告

戦略的な優先順位付け

1: WHOISに関する戦略的な優先順位付け

単一のWHOISポリシー

2: 単一明快なWHOISに関するポリシー

アウトリーチ

3: 消費者認知度向上のためのアウトリーチ

コンプライアンス

4: 実施体制を整備してコンプライアンスとして管理

データの正確性

- 5: データ正確性要求を登録者へ周知徹底
- 6: 連絡不可能な登録の低減策
- 7: 正確性向上成果の年次報告
- 8: 明快な契約連鎖と非準拠者への段階的制裁
- 9: WDRPによる年次通知が非効率ならば代替案

プライバシー・プロキシサービスのデータアクセス

10: プライバシー・プロキシサービス事業者への監視・規制プロセスの導入

一般的インターフェースのデータアクセス

11: InterNICサイトの全面的改良によって全gTLDに多言語で照会可能なサイトをICANNが提供

国際化ドメイン名 (IDN)

- 12: 多言語登録規格化WG設立と1年以内の報告
- 13: 多言語登録規格のレジストラ・レジストリ契約への導入(制定後半年以内)
- 14: 多言語登録の正確性基準の制定

包括的詳細計画

15: 包括的詳細計画を3ヶ月以内に提示

年次報告書

16: 年1度以上の定期報告書提出

最終報告書・新旧対照(1)

戦略を先頭に

戦略的な優先順位付け

1: WHOISに関する戦略的な優先順位付け

単一のWHOISポリシー

2: 単一明快なWHOISに関するポリシー

WHOIS Data Reminder Policyのレビュー

2: WDRPによる年次通知が非効率ならば代替案

アウトリーチ

3: 消費者認知度向上のためのアウトリーチ

コンプライアンス

4: 実施体制を整備してコンプライアンスとして管理

データの正確性

5: データ正確性要求を登録者へ周知徹底

6: 連絡不可能な登録の低減策

7: 正確性向上成果の年次報告

7: 目標達成進捗の実体的データの提供

8: 明快な契約連鎖と非準拠者への段階的制裁

9: WDRPによる年次通知が非効率ならば代替案

9: 既存登録者への登録データ正確性要求の徹底

統合

追加

具体的項目を吸収

プライバシー・プロキシサービスのデータアクセス

10: プライバシー・プロキシサービス事業者への監視・規制プロセスの導入

11: 非準拠事業者に対する段階的制裁

プロキシサービスのデータアクセス

12: プロキシサービス事業者との議論推進

13: レジストラとの関係開示要

14: プロキシサービスの推奨実施例の制作と維持

15: 推奨実施例を採用するレジストラの奨励・報奨

16: WHOISポリシーでプロキシの定義を明確化

大幅な統合

一般的インターフェースのデータアクセス

11: COM, .NETに対するThick WHOISサービスの提供
ICANNが提供

(あるいは) InterNICサイトの全面的改良によって全gTLDに多言語で照会可能なサイトをICANNが提供

方針具体化

国際化ドメイン名(IDN)

12: 多言語登録規格化WG設立と1年以内の報告

13: 多言語登録規格のレジストラ・レジストリ契約への導入(制定後半年以内)

14: 多言語登録の正確性基準の制定

最終報告書・新旧対照(2)

包括的詳細計画

15: 包括的詳細計画を3ヶ月以内に提示

追加

年次報告書

16: 年1度以上の定期報告書提出

改版点(1): 戦略的優先順位付け [勧告1]

- 大幅に文字数を割いて重要性を記述
- WHOISはあらゆる面でICANNの戦略の上で最優先事項である
 - 事務総長を含む理事会委員会を組成するべき
 - 組織対応の上で、スタッフのインセンティブ付けが必要
 - 目標に対する達成度の管理が必要

改版点(2):コンプライアンス[勧告4]

- 少なくとも投資や取り組みがなされているはずなのに、投資額・投資人員、支出の計画と実績、パフォーマンス尺度などが不明なまま
 - 組織の優先課題に取り組む上で、コンプライアンス部門によって業務遂行体制がチェックされ、妥当な体制整備や投資がなされるべき

【勧告】

- a. 人員配置、投資額、支出実績、目標に対するパフォーマンス、組織体制などの年次報告
- b. 理事会委員会に直接報告するコンプライアンス専任の責任者を含む、責任・報告体制の明確化
- c. コンプライアンスチームへのツールの提供
(新gTLDプログラムの実施において重要)

改版点(3): プライバシー・プロキシサービス

[勧告10]

- プライバシー、プロキシサービスには需要がある
 - 個人データの公開をためらう個人ユーザ
 - 宗教的、政治的、民族的マイノリティ、モラルや性的嗜好において物議を醸す団体
 - 公表できない近日中の合併、新商品などを持つ企業
- 一方で、登録者が同定しづらいことから犯罪の温床となり、法執行機関からの懸念も大きい

【勧告】

- プライバシー・プロキシサービス事業者を規制し監視するプロセスを設けるべき
 - 例えば認定制度など

改版点(4): 計画と報告 [勧告15, 16]

- [勧告15] 最終報告書提出から3ヶ月以内に包括的で詳細な計画を提示すべき
- [勧告16] 計画提出後1年までの間に最初の報告書を提出。報告書は基礎的な事実や数字など関連情報、分析を含むこと

RAA改定議論

RAA (Registrar Accreditation Agreement) 改定議論

- 6月25日(月) “*Update on RAA Negotiations*”
 - <http://prague44.icann.org/node/31631>
- レジストラ他ステークホルダーと進めてきたRAA改定交渉の途中経過として、具体的なRAA改定案を示した上で現状報告と議論
- 検討課題にWHOIS関連が多数
 - Whoisデータ検証手法、電話確認、年次再確認
 - データプライバシー問題、各国法との兼ね合い
 - これらのレジストラ・登録者に対する負担

.com契約更改とThick WHOIS

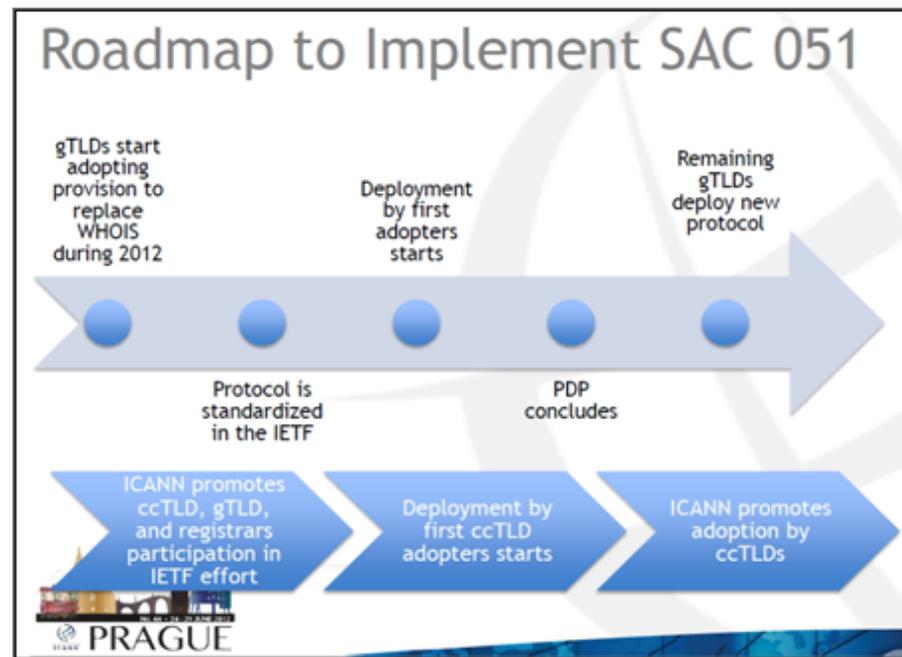
.com契約更改とThick WHOIS

- 6月23日(土)理事会で、.comの契約更改が承認
 - <http://www.icann.org/en/groups/board/documents/resolutions-23jun12-en.htm#2>
- .comは.netとともにthin WHOIS方式(レジストラが登録者データを持ち、レジストリが統一台帳を持たない)を取るレジストリで、更改議論の中でthick WHOIS化(レジストリが統一登録者台帳を持つ)の議論もあったが、契約更改には盛り込まれなかった。
 - <http://www.icann.org/en/news/public-comment/com-renewal-27mar12-en.htm>
- 会場では、thick WHOIS化を求める声複数
- thick WHOISに関してPDPを通じて今後議論
 - 3月に開始を決議した後、.com契約更改後まで延期

WHOIS代替プロトコル

Replacement of the WHOIS Protocol

- SAC051 “SSAC Report on Domain Name WHOIS Terminology and Structure”
で示されたWHOISの新枠組みに関するアップデート
 - WHOISの構成要素をデータ構造(DNRD), アクセスプロトコル(DNRD-AP), ディレクトリサービス仕様(DNRD-DS)に分け、新枠組みを提案
- 国際化データ収容の必要性が他の報告書でも指摘
 - WHOISレビューチーム、IRD(国際化登録データ)WG
- “RESTful”な仕様
 - IETF WEIRDs WG
 - ARINに実装あり



最後に

プラハでもWHOISに関する議論盛りだくさん

- レビューチーム最終報告書では優先課題に対するコミットメントに対して、コンプライアンスの問題として改善が勧告されている
- RAA改定でも登録データの正確性検証が主要な課題として認識
- .comのThick WHOIS化はPDPに沿った検討へ
- WHOISの技術課題は、各ステークホルダーやIETFとの連携で前進へ

ありがとうございました

2012/07/31 第34回ICANN報告会
WHOISに関する最近の動向(アップデート)
JPNICインターネット推進部
前村昌紀